■第三者評価結果票（兵庫県 様式６）

［認知症対応型共同生活介護 用］

１． 第 三 者 評 価 結 果 概 要 表

作成日：平成20年９月７日

【評価実施概要】

事業所番号	2893800017		
法人名	社会福祉法人 正久福祉会		
事業所名	グループホームまどか園		
所在地	（〒671-4122） 兵庫県宍粟市一宮町福知1029	電話	0790-74-1622
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町２丁目２番14－703号		
訪問調査日	平成20年7月22日	評価確定日	平成20年9月7日

【情報提供票より】〔平成20年6月30日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

（1）組織概要

開設年月日	平成18年7月1日	
ユニット数	1ユニット （利用定員…計９人）	
職員数	８人	（常勤６人）（非常勤２人） / 常勤換算7.5人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	地上１階建て建物の１階部分

（3）利用料金等 （介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	57.000円	その他の経費（月額）	15.300円
敷金の有・無	無し		
保証金の有・無（入居一時金含む）	無し	（保証金有りの場合）保証金償却の有・無	
食材料費	朝食 円	昼食	円
	夕食 円	おやつ	円
	１日あたり	1,380円	

（4）利用者の概要 （平成20年7月22日 現在）

利用者人数	計９名 … （男性０名） （女性９名）		
要介護１	０名	要介護２	５名
要介護３	２名	要介護４	２名
要介護５	０名	要支援２	０名
年齢	平均87歳 … （最低83歳） （最高94歳）		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	とくなが病院 塚本歯科

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境のよい田園地帯に建てられたホーム。併設の特別養護老人ホームや通所介護事業所と連携した介護への取組みなされている。管理者自身が看護師であり、緊急時対応も含め、日々の健康管理においても心強い。利用者は活動的で明るく、ホームの生活に馴染んでいる様子が伺えた。毎日のように庭に出て、散歩、菜園での作業、花の水やりなど、思い思いに外気浴を楽しんでいる。付近の道路の勾配がきついこともあり、症状の重度化に伴なう利用者の安全や外出機会の確保について検討課題になっている。契約書等の文書類を含め、ケアの実施記録類も細かく記載がされ、整備されている。将来的な拡張を視野に入れ、施設の整備を行なっている最中でもある。 ◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：第三者4） なし（今回が初めての評価受審）
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：第三者4） 管理者が全体をチェックし評価を行なった。次回からは全員で自己評価に取り組む予定。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：第三者4，5，6） 運営推進会議では、年度計画に基づく行事予定や入居者の状況などが話し合われており、自治会や民生委員のメンバーから積極的な意見・提案が出されている。行政の担当者も必ず参加している。家族や本人の意見も集約され、地域との連携もスムーズに行われており、実習生の受入れなどにもつながっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：第三者7,8） 家族との意見交換や、定期的な報告がスムーズになされている。医療部門との連携も期待できる環境が整っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：第三者3） 「特養」の運営において築き上げてきた関係を活かし、地域と上手く連携できている。地域の行事に積極的に参加し、地元の方々との交流を深めている。今後は、地域の方々がホーム主催のイベントに参加されできるよう、企画を検討してもらいたい。

◎食事を楽しむことのできる支援

食事のあとかたずけも協働で

◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

菜園での作業（黒豆の枝豆を収穫）

日課になっている花の水遣り

◎居心地のよい共用空間づくり

庭で育てた花をリビングに飾り…

◎その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

リビングにはソファを置き（2箇所）、思い思いに過ごす

◎居心地よく過ごせる居室の配慮

居室には冷蔵庫やテレビも持ち込み…

◇所定の書面に添える資料として、事業所の了解も得て掲載するものです。◇評価結果の活用（ケアサービスの向上、地域の方々の高齢者介護への理解…など）に、ご参照・お役立て下さい。
◇ プライバシーの配慮、個人情報保護の観点から、誠に失礼ながら、ケアサービス利用者のお顔などについて適度の処理を施しています。（処理不要のお申出があるときはこの限りにありません。）

２．　第　三　者　評　価　結　果　票

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者にとって“当たり前の（平穏な）生活”とは、日常生活における制約を減らすこと」との考えのもと、入居時には、これをグループホームの方針として説明している。職員研修などでもその理念を理解するための取組みがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者への接し方などは、普段の生活の延長であるという意識で対応している。個人の生活暦の把握が重要であるとの認識を持っている。	○	職員の経験による差があるので、今後職員間で理念の共有を強く意識してほしい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や民生委員との関係を活用し、地域の運動会やお祭りなどの行事に積極的に参加している。	○	関連施設との相互訪問やキャラバンメイトの活用などが期待される。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の受審は、今回が初めてであり、管理者自らが内容を理解し自己評価を行う努力をしている。日常業務を見直す良い機会と捉え、職員のヒアリングや記録の点検などが行われている。		

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、家族や利用者の意見を聴きながら、計画の見直しに繋げている。地域の民生委員や自治会、行政からの参加も行われている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも市関係者の見学を受け入れている。その他、実務者研修や大学、専門学校からの研修を受入れ、市民局との連携を図りながら質の向上に取組んでいる。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の外出行事の許可を頂く時に、家族の方へ近況報告を行っている。また、請求書の送付時に出納帳のコピーを添付し、法人から「ほっと通信」などを送って事業所の行事や日々の暮らしぶりなど、定期的に情報を出すようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問や運営会議の機会を活用し意見を取り入れる努力がなされている。意見のいいやすい環境作りにも力を入れ、出てきた意見を職員間で共有し実践に生かせるよう、管理者が調整をしている。	○	家族の中でも出席できない人や意見を述べることに遠慮がちな人に対し、対策を検討する予定。家族からの情報提供などにより、各個人の生活暦を職員で共有し、日常生活に反映できれば不安面も少なくなると思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が出たとき、重複期間を1ヶ月は取るようにしており、職員はユニットに専属できる環境を作っている。利用者とのなじみの環境を最優先し、職員の採用に関してもグループホームの特性に合った人材を考慮している。		

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける順番を考慮して、受講機会も偏らないようにしている。タイミングを見てレポートの活用を行っており、内部研修を数多く実施している。新人職員にはOJTを活用したりしている。	○	日常における入居者の状況を、より把握するためのスキルアップ研修を実施するなどしてもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老人社会福祉協議会の青年部へ参加し、ネットワークを活用している。他のグループホームや小規模多機能施設からの実習も受入れ、毎年、実習者研修に職員を参加させるようにしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今後の施設拡張の方向性も視野に入れながら、なじみの関係からサービス利用につながるような取組みを心がけている。併設のデイサービスやショートステイの利用を通して入所支援につながった例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の主体性を大切にし、できることを分担してもらっている。朝の雑巾がけや調理の前処理など、生活の知恵を利用者から教わることも多い。共に生活する中で、喜びや悲しみを共有できる関係を築いている。		

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を通して、日々の暮らしの中から想いの把握をする努力をしている。意志の疎通が難しい方の場合、家族の協力を得て、本人の立場に立って検討するようにしている。	○	今後、記録をセンター方式に切り替えていく予定であり、職員が情報を共有しやすい環境を作っていってほしい。
２．より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職能要件書の活用をしながら、ケアプランの作成に取組んでいる。本人の希望や家族の願い、医療分野との連携を含め、より良い介護計画の作成を目指している。	○	管理者の医療分野の知識を活用し、職員へのアドバイスや計画作成への係わりが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとにカンファレンスを行い、それ以前に見直しが必要な場合は随時関係者を集めミーティングを行っている。職員の意識を上げることで、利用者の状況把握などの共有化が期待される。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している特別養護老人ホームやデイサービスを活用し、多くの行事を合同で行っている。また、訪問看護や認知症デイサービスとも連携している。理美容の委託なども行っている。		

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、原則的に本人や家族の希望する意志や近隣の医院を受けられるように支援している。グループホームでの日常生活状況については、職員を通じて医師や協力機関に伝えるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実例としてはまだ無いが、看取りの指針や家族への説明書類などは整備されている。入居時には家族に終末期における基本的な対応を説明し、かかりつけ医などとの話合いにより方針の共有が出来ている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **（1） 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーへの取組みについては細心の注意を払い、個人情報保護委員会を設置している。個人情報保護規定にのっとり、機会あるごとに研修も行っている。職員との契約時にも書類を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の視点で、その日のスケジュールを調整している。本人の希望を聴きながら、その人らしい生活を支えるようにしている。	○	個々の利用者の生活暦などを職員間で共有できるよう、その仕組み作りをお願いしたい。

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
（2） その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や下ごしらえ、配膳・下膳などを職員と一緒に行っている。味付けや調理にも個人の嗜好を加味した取組みがされており、食べる喜びの共有が出来ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大きくは2グループに分けて曜日を変えた対応をしており、入浴時間についても各個人の状況に合わせた対応がなされている。季節に合わせた入浴剤を利用し、また、ご近所の方々から頂いた柚子を湯に浮かべるなど、一般の家庭と同じく、“入浴の楽しみ”を大切にしている。		
（3） その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域柄、農作業に関する希望者が多く、植物の栽培や収穫など、その人に合った楽しみ方をしてもらっている。季節に応じ、つるし柿やサツマイモの収穫、お茶摘みなど、近くの休耕田を活用した取組みがなされており、基本的には、その人に合った過ごし方を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	農協への買い物や外食など、隣接施設のマイクロバスやワゴン車を活用して出かけている。散歩や畑作業などの外出機会も出来る限り支援している。		
（4） 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺の道路状況によりやむを得ず施錠している。安全性の確保が出来るなら、外に出れる場所を提供し、活動してもらえるような取組みを考えている。	○	外部空間の整備をし、安全に外へ出られる工夫を検討してもらいたい。

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自に、火災通報設備を設けており、スプリンクラーも設置している。事業主体（法人）では消防団との連絡体制が出来ており、消防署の協力による避難訓練などが行われている。防火管理者の講習も年2回受けている。		
（5） その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取の記録を毎日つけており、昼食後のチェックでその日の状況を把握できるようにしている。不足気味の場合は入浴時や寝る前の時間帯で調整をしており、一日の摂取量1500ccを目標にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1） 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井の高い開放的な空間作りがなされている。リビングにはくつろげるようにソファーを配置し、食堂との間をつい立で仕切り空間の変化を演出している。テレビも別のコーナーに2台設置し、それぞれの好みで選べる工夫がされている。壁面には行事の写真などが飾られており、その時々の利用者の様子が伺われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は個室で、やや広めである。トイレは共用部に設けられている。冷蔵庫やテレビの持ち込みも可能で、自宅で使っていた家具や思い出の品などを持ち込んでもらっている。		

※ ▨ は、重点項目。